

## 出張報告書

柴田研究室 D1 佐々木裕之介

滞在研究期間：佐々木；2018/10/23~2018/10/27

滞在大学：Waseda Bioscience Research Institute in Singapore (WABIOS)

### 交流・研究概要

10/23(火)

09:15 羽田空港発。同日 15:15 (現地時間) シンガポール・チャンギ空港に到着。電車を乗り継いで WABIOS に到着。高橋先生と Jean に挨拶をし、ワークショップに関するスケジュール等の確認を行った。その後、柴田先生・井上先生・青山先生と合流し、食事をした。

10/24(水)

Health Promotion through Food Science, Chrono-nutrition and Sports Science -From basic to applied research-に参加。

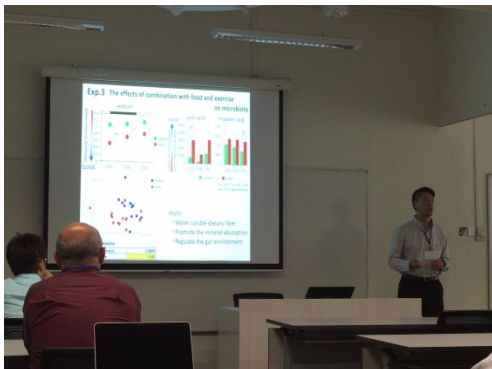
この日は聴講がメインであった。ヒトを対象とした研究がメインだったため、自身が行ってきたマウスでの実験と結果が一致しているのかどうか、気にしながら聴講した。

ワークショップ後は参加者との食事会に参加する。

10/25(木)

Singapore Polytechnic にて開催された Biotechnology Towards Next Generation Single Cell Analysis に参加。

口頭発表を行う。過去に何度か英語での発表を行っているが、20 分間の英語での口頭発表は初めてだったため、とても緊張した。発表後の質疑応答では、質問を聞き取ることができ、日本語でどのように回答するかまでは考えることができたが、それを英語で表現し伝えることがなかなかできず、自身の今後の課題となった。



発表中の筆者 (佐々木)

10/26(金)

WABIOSにて高橋先生と今後の実験に関してディスカッション。

私は普段、研究室で腸内細菌の実験を行っているが、今後、WABIOSにおいても同様に腸内細菌系の実験を行うとのことだったので、実験手法や使用する試薬、実験を行う上での注意点などのすり合わせを行った。

ディスカッション後はシンガポールを観光、NTUやNUSも訪れた。



NTU エントランス



NUS 内



WABIOS 前

10/27(土)

00 : 35 シンガポール・チャンギ空港発 08 : 45 成田空港着

交流総括

【佐々木裕之】

今回のシンポジウムで実感したのは英語で伝えることの難しさであった。英語で発表する機会・発表を聴講する機会が次第に増え、英語に対する拒絶感は段々と少なくなってきたように感じていた。しかしながら、未だに自分の考えを伝えるという部分に関して、今後も研鑽する必要があると実感した。特に、こう伝えたいのに、単語力のなさから何と言ったら良いのかともどかしい気持ちになることが多々あった。単語がわからなかったら別の言い方で言い換えるといった機転の利かせた方も今後は必要なのではないかと感じた。今後も自身の研究活動に今回の経験を活かし、研究者としての成長につなげたいと思います。